

概要報告

実施期日	令和7年8月5日(火)
部会名	中学校 特別支援教育部会

研究主題

個々の子どもの困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫

テーマ

『支援が必要な生徒が生きる場としての学校づくり

～組織を活用したさらなる連携 藤ヶ岡ルーム・藤ヶ岡タイムの充実をめざして～』

提案概要

育成したい資質・能力として、①よりよい人間関係の構築 ②自己肯定感を高める ③自己有用感の実感 を達成するために朝自習の時間「藤ヶ岡タイム」を利用し、SST（ソーシャルスキルトレーニング）を全校で実施した。

○実践の内容

週1回10分 → 現在は月2回実施

「スリム&シンプル」 短い時間で・簡単に・継続して

話す・聞くを基本

ひとりひとりが話をする、聞くこと

相手の話を聞いて、否定しない

うなずきや笑顔など話しやすい雰囲気づくりを行う

実施したSST

第1段階	アドじゃん
第2段階	二者択一
第3段階	いいところ三面鏡

○成果と課題

課題

計画した日が行事と重なることがあり、実施できないことがあった。

→月間予定の中に組み込み、行事と重ならないように調整。

どの担任も自信をもって行えるよう、事前の準備、周知が大切

→新しい活動の前には学年ごとまたは職員全体でデモンストレーションを行った

成果

生徒、教員ともに活動実施後の変化・変容を感じ取ることができた。

不登校の生徒が登校するためのモチベーションとなった。

活動したあとの朝の挨拶の声が大きくなった

相手のことを考えられる時間になった

相手の良いところを考えられる生徒が増えた

活動での会話をもとに、その後の日々の会話の話題となった

自分の良いところに気づけた

*活動したことにより、コミュニケーション能力の向上・対人関係の改善、自己肯定感の向上につながるような実感を受けている。

質疑応答

質疑 中学校の教員からみて、小学校で身につけてほしい力があったら教えてほしい

応答 対話、対面での体験・経験を大事にして学校生活を過ごしてほしいと思っている

自分自身で確かめる力をつけさせたい

複数の小学校が集まって過ごしていくので、そのイメージを小学校を卒業する前にできているとスムーズに中学校生活に移行できるのではないかと

質疑 特別支援学級が新設されるということだが、在校生の転籍なども含め、状況がわかったら教えてほしい

応答 今の時点では具体的なことは何とも言えないが、校内でもアナウンスはしているので、興味をもたれているご家庭もある

質疑 学習指導要領の自立活動は中学校の教育課程の中でどのように位置づけられるのか

応答 現状特では別支援学級がないが、特別支援教育部会で発表するにあたり、特別支援学校の学習指導要領と照らし合わせ、今回の取り組みが「自立活動」につながるのではないかと

協議の柱及び協議概要

「人と関わる力の育成（良好な人間関係づくり）」

今までに取り組んだことのあるSSTとそれをやってみての実感について、各自で付箋にまとめ、グループで共有した。その後その用紙を見て回り、それぞれの実践を知り、人と関わる力の育成するための指導方法について深めた。

まとめ概要

今回の取り組みは「組織を活用した連携」の結果、学校全体として年間を通して取り組んでいる点で素晴らしいことである。通常の学級、特別支援学級に関わらず、話を聞くのが苦手な子、自分の思いをどのように伝えたらいいのかわからず、適切に友だちと関われない子などがいる中で、学校全体でSSTに取り組んでいくことによって、スキルを身に付けようとしている友だちの少しの進歩に気付けるようになり、努力や成長を見守ったり認め合ったりすることにもつながると思う。このような実践を通して、「違い」を多様性として受け入れ、柔軟に関わることができる「共生力」を備えた人たちの育成につながってほしい。